



- ①移住のきっかけ
- ②移住してよかったことや移住先のお気に入りの場所
- ③これから移住する方へのアドバイス

4

東京↓出水市

Uターン

井町 直紀さん、美穂さん

ステンドグラス職人



- ①東京でアトリエを持ち、ステンドグラス教室も開催。鹿児島で暮らす両親のことを考え、Uターン。
- ②直紀さん：時間に追われなくなり、気持ちに余裕ができています。美穂さん：移住時の目標“家族で楽しく幸せに暮らすこと”が、少しずつかない始めている。
- ③直紀さん：難しく考えがちだけど、思い切って飛び込んでみて。美穂さん：勇気を出して一歩を踏み出したら、移り住んだ土地が自分の居場所に。

3

東京↓枕崎市

Iターン

大橋 佑輔さん

地域おこし協力隊

- ①東京生まれ、東京育ち。IT業界でキャリアアップを実現するも、オーバーワークに。自分の理想の暮らしは何か、あらためて見つけるために移住を決意。
- ②温かい人、自然、おいしい食に囲まれて、毎日が充実。夜、ふと空を見上げ、満天の星空を見た時、朝起きて波の音を聴き、海を見た時に、移住してよかったと感じる。
- ③「移住」という言葉は大きな決断のように聞こえるが、広く捉えたら「引っ越し」。深く考え過ぎず、どうしてもダメなら帰ればいい! くらいの気持ちでもよいのでは。



5

山梨↓いちき串木野市

Iターン

小林 史和さん

カフェ経営・編集者

- ①前職で心と身体を壊し「人生の後半戦は楽しみたい!」と退職。ワクワクすることがしてみたくていちき串木野市の地域おこし協力隊に。※現在は地域おこし協力隊を卒業し、カフェを経営中。
- ②移住して初めて気づく発見はとても新鮮で、心が躍る。かけがえない人生経験だと実感。
- ③知人がゼロのところ飛び込むのは不安だが、たくさんの人と話をして友達を増やし、その状況を楽しんで!



6

全国転勤↓喜界町

Iターン

行本 哲也さん

酒造会社勤務

- ①全国転勤で生活拠点が定まらず、「このままで本当に幸せなのか?」と疑問を抱くように。何度も足を運び気に入っていた喜界島。「移住したほうが楽しいはず!」と決意。
- ②やっぱりスギラビーチ。特に夕暮れ以降に訪れるのが好き。喜界島の海もお気に入り。
- ③退勤後、そのままビーチへ。海を楽しんでから子供を迎えに行き、一緒に家へ帰るとい夢をかなえた。都会とは違った、離島ならではの生活をぜひ楽しんで。

暮らし自分らしい移住でかなう

Kagoshima Live

巻頭特集

全

国的に若い世代を中心に都市部から地方へ移住しようとする動きが見られ、昨年度の鹿児島県への移住者も、20〜40代が半数を超えています。南国の温暖な気候。雄大な桜島や穏やかな錦江湾。霧島、世界自然遺産の屋久島、奄美大島・徳之島をはじめとする多様で豊かな自然。「和牛日本一」に輝いた鹿児島黒牛をはじめ、黒豚、ウナギ、ブリ、カンパチ、お茶、焼酎などの豊かな食。心も体も癒やされる温泉などなど。このような魅力あふれる地に移住した動機や、その地域もさまざま。移住で希望をかなえた方々の声をご紹介します。

移住者の方の声は「かごしま移住ネット」にも!



2

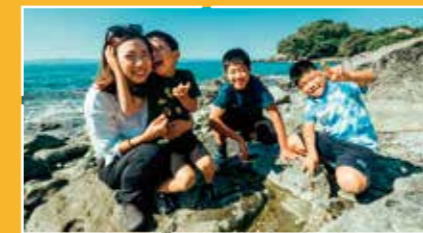
Iターン

馬場 恵里奈さん

会社員

東京↓鹿屋市

- ①夫の故郷である鹿屋市は、海がすぐ近くにあり、のんびりと時間が流れる最高の場所。家族みんなの「鹿屋に住みたい」がきっかけに。
- ②車の渋滞もなく、広くてきれいな一軒家に住むことができ、ストレスフリーに子育てができています。
- ③移住して、家族はもちろん、自分のことも大切にできている。子育ても含めて、自分たちに合った環境を選んで。



1

Uターン

馬原 貴行さん

飲食店経営

東京↓志布志市

- ①「いつか鹿児島に帰る」という思いがずっとあり、コロナ禍をきっかけにUターン。
- ②港から眺める海が好き。漁船が見えたり、さんふらわあフェリーが見えたりするのがお気に入り。
- ③あまり調べずに移住したが、移住にはさまざまな支援制度が。これから移住する方には、事前によく調べてみることをお勧めしたい。

